



「ブーケ」(花束) は日米のコンテストで受賞した作品

218×218



子ども時代から大の手芸好き。ご自身のウェディングドレスを手編みする程物創りに夢中だった森廣さん。結婚後海外のテレビドラマで見たベッドカバーに一目惚れしたのがキルトとの出会いです。



小さな六角形のパーツを縫い合わせていく作品の取り組み期間は十年を越えているとか



部屋の一角には数々の賞状が。キルトの本場アメリカでの受賞も！



「作風が固まらないように作品ごとに技法を変えて…」



古い建物の天井画をヒントにしたアップリケ

憧れのキルト作家が講師を務める東京のキルト塾に通い続けて17年。現在も仲間と一緒に技術を磨き続けています。



「キルトを通して世界が広がり、たくさんの方の仲間に出会えました。教室で教える生徒さんの成長に励まされることもあります」



教室の看板もキルトです。ハサミがそのまま縫い付けられて!?…。右は生徒さんとの共同作品。



「嫁ぐ日に」はアメリカの The National Quilt Museum に収蔵されています。※米国パデューカのコンテストでハンドメイドのトップ賞に。日米合わせて3つの賞を獲得した作品です。

219×219



最新作「組子組曲」は大好きな組子をモチーフに仕上げた作品です。制作期間は約2年！東京国際キルトフェスティバルに招待作家として出品（2019年）。241×231



自宅のアトリエとまちづくり協働センターで教室を開催中。興味のある人は Tel 079-565-4573（森廣さん）まで